

平成 29 年度 第 16 回政策推進会議報告

日 時 1月19日 9時30分～10時57分
場 所 4 - 1 会議室
出席者 23人

1 尼崎市障害福祉計画（第5期）素案に対する市民意見公募手続の実施について

健康福祉局長から資料に基づき報告。

2 第7期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画（素案）に係る市民意見公募手続の結果等について

健康福祉局長から資料に基づき報告。

3 （仮称）尼崎市住宅宿泊事業の適正な運営の確保に関する条例（骨子案）の制定に対する市民意見公募手続の結果について

医務監から資料に基づき報告。（以下、質疑等）

（市長）まずは県どおり、そしてやや抑制的にこういう規制を行うが、今後の尼崎城を活用した観光地域づくりを進めていくにあたり、いろいろな状況を見ながらまた丁寧に進めていければいいのかなと考えている。昨日、ゲストハウスに関わっている大学の先生と懇談する場があったが、海外の事例なども研究しながら進めていけばいいのではないかというアドバイスをいただいた。

4 尼崎市子ども・子育て支援事業計画の中間年の見直し（案）について

こども青少年本部事務局長から資料に基づき報告。（以下、質疑等）

・概要版 2 ページの保育所の対策の中で「企業主導型保育事業の設置」とある。認可保育所には依然として企業の参入を認めない方針と聞いているが、ここではいわゆる無認可の駅前預かり所とかそういうものを示しているのか。

企業内に設置された従業員の子どもを中心に受け入れていく保育所のことを指しており、定員の半分までは従業員以外の地域の子どもも預かってもらえるような仕組みになっている。そこに預かってもらえれば、枠が増えるので待機児童の解消につながる。

（市長）「企業内保育所」という表現のほうがわかりやすいかもしれないが、企業の従業員しか受け入れないというイメージにもなるのでこういう言葉ができた。近年の売り手市場により各企業で採用が難しい状況の中で、企業内の保育所設置ということにも前向きに取り組んで人材確保に繋げていこうという機運が企業のなかにも出てきているかなと思う。実際に市内の企業で相談を受けているところもいくつかあるので、ここはそういう誤解を解きながらやったほうがいいかもしれない。

(市長) 同じく 2 ページの受入枠の数字について、定員については各年度に増やす人数を書いているが、弾力運用は累積人数となっており、表記がずれている。揃えるか 1,350 人の内訳を書いたほうがよい。

(市長) あと 2 年で 1,350 人の受入枠の確保ということで、小規模保育を 20 箇所作るというのはハードルが高く思うが、来年度向けの施策の反応を見ながら頑張っていきたい。

5 尼崎市空家等対策計画(素案)に対する市民意見公募手続の結果について

都市整備局長から資料に基づき報告。(以下、質疑等)

(市長) 代執行等の対処だけではなく、いよいよ予防的・発生抑制・利活用・流通促進等を総合的に頑張っていくという決意のこもった計画ができたということなので頑張っていきたい。

6 尼崎市中学校給食基本計画(素案)に対する市民意見公募手続の結果等について

教育次長から資料に基づき報告。(以下、質疑等)

(市長) パブリックコメントでは予想よりも色々な意見を出していただき、検討委員会で論点になったようなところがもう 1 回幅広く出たのかなという印象を受けた。この案件は、どの方式にしても 100 点を取れない、一長一短があるなかで、そういう意味では誰もが納得するのは難しいが、共通の願いはなるべく早く実施してほしいということかなと思う。今後も各局のご協力が必要な取組になるのでよろしくお願いしたい。

7 その他

危機管理安全局長から、防災研修(熊本地震における熊本市の災害対応)について説明。

ひと咲きまち咲き担当局長から、あまらぶアートラボ「瓦の音楽コンサート in 尼崎」、あまらぶ体験隊第 21 弾「皆既月食と工場夜景」、あまらぶ体験隊第 22 弾「ブラグウジ 1 城内・大物」について説明。

消防局長から、住宅防火防災推進シンポジウム&尼崎消防の絆 70 周年記念大会について説明。

以 上